

ふね遺産 第1回 応募案件－20

「ふね遺産」(応募様式)：A4一枚に収め、それ以上は別途資料添付して下さい。

2016年12月8日提出

氏名(個人名または団体の代表者名)：碓崎 貞雄

所属(個人は住所)：ふね遺産西部支部調査検討委員会

メールアドレス：skakizaki1126@krc.biglobe.ne.jp

その他の連絡先：山口県下関市一の宮町5-8-22

	内容	備考
1. 対象物・資料の名称・所属または所有者	<ul style="list-style-type: none"> ・対象物：250トン・ハンマーヘッド型クレーン ・原所属：佐世保海軍工廠 ・現所属：佐世保重工業株式会社 	
2. 対象物の作成・存在時期	<p>・クレーン本体は英グラスゴーの Sir William Arol & Co., で製造され(電動機は Westinghouse 製)、1913年10月に佐世保海軍工廠・立神係船池の艦装岸壁に据え付けられた。第2次大戦後は佐世保重工業(株)に移管され、現在まで引き続き大型艦船の艦装や修理に使用されている。</p>	
3. 現状(写真添付)	<p>・クレーン本体、機械室や運転室を含めて竣工当時のままである。</p> 	 <p>クレーン本体銘板</p>  <p>旋回用モータ銘版</p>
4. ふね遺産認定基準の該当項目	<p>【認定対象】 (2),(4) 【認定基準】 (1), (2), (3), (4), (7), (8), (9), (10), (12)</p>	
5. 歴史的・工学技術的意義	<ul style="list-style-type: none"> ・世界史に大きな影響を及ぼしたド級戦艦をわが国でも建造するために、1910年代に横須賀、呉、佐世保の各海軍工廠や三菱長崎に英国から輸入整備されたものの中の1基である。 ・英国からの技術移転および造船技術の状況を知る貴重な遺構であり、竣工当時は同型クレーンで世界最大であった。また、世界的に見ると本型のクレーン残存数は限られている。 	<p>次の機関より産業遺産として認定されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経産省近代化遺産群 33 ・国の登録有形文化財
6. 参考資料・文献(本表に収まらない場合は別途添付する)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 酒井哲也 250T クレーン 日本船舶海洋工学会西部地区メールマガジン 第27号 2009.12 2. 滝口信次 竣工から100年を迎えた250トンクレーン 同上第52号 2014.2 3. 横須賀市文化財調査報告書第39集 旧横須賀海軍工廠200トンクレーン調査報告書 2004.3 	